

校内研修計画

1 研究主題

自分の考えを広げ深め、確かに表現することができる生徒の育成
—対話を重視した言語活動の充実を通して—

2 研究主題について

【自分の考えを広げ深める】

- ・自分の考えをもったり、確認したりする
- ・新たな情報や考え方、価値に気付く
- ・自分の考えを分かりやすく整理したり、より確かなものにする
- ・多様な考えを比較・分類・関連付けしながら吟味し、新たな自分の考えをもつ

【確かに表現することができる】

- ・自分が感じたことや考えたことを、素直に表すことができる
- ・相手の思いや考えを受け止め、それを尊重したり、自分の思いや考えを重ね合わせたりしながら、自分の考えを表すことができる
- ・事実や自分の考えを、正確に分かりやすく表すことができる
- ・相手や場の状況に応じ、自分の思いや考え、事実を、適切に、かつ効果的に表すことができる

【対話】

- ・他の思いや考えを尊重しながら、他者とコミュニケーションをすること
- ・生徒同士が、互いの思いや考え、その価値や意味を共有するために、話したり聴いたり、議論したりすること
- ・教師や地域の人と話したり、話を聴いたりして、互いの考えを交わすこと
- ・教材や資料、自分自身と向き合い、考える手がかりとすること

【言語活動】

- 多様な言語（言葉、数式、記号、図、グラフ、スケッチ、資料等）を用いて、
 - ・生活や学習活動で感じ取ったことを、表現したり交流したりする活動
 - ・互いに、自分の思いや考えを伝え合い、共有して、理解し合う活動
 - ・事実等を正確に理解し、他者に的確に分かりやすく伝える活動
 - ・概念・法則・意図などを解釈し、それを説明したり活用したりする活動
 - ・情報を分析・評価し、結果を整理したり論述したりして、考えを深める活動
 - ・課題についての構想を立てて実践し、その結果を分析・整理したり、整理したことを基に工夫や改善を図ったりしていく活動
 - ・互いの考えを伝え合い、議論することで、自分や集団の考えを発展させる活動

3 主題設定の理由

(1) 本校教育目標から（経営の基本より抜粋）

- ①課題提示の工夫を通して学習の見通しをもたせ、学び合いやまとめ・振り返りのプロセス「秋田の探究型授業」を大切に授業改善を図る。
- ②姿勢を正して話をよく聴く、私語をしない等の基本的な学習規律の維持・向上を図り、全ての生徒が意欲的に学習に取り組む環境をつくる。
- ③学びのプロセスや考えを深めることができる多様な学び合いの場面において、言語活動の充実を図る。
- ④教科の枠を超えた校内研修や学年部研修を継続し、県・市教育連携を活用しながら一層の指導力の向上を図る。

⑤授業と家庭での学習を結び付けた指導支援に努め、自ら学ぶ学習習慣を身に付けさせるとともに、基礎・基本の確実な定着を図る。

(2) 生徒の実態から

諸調査の各教科正答率において、多くの教科で県平均を下回っている。質問紙調査においても、「授業が分かる」とする割合が県平均を大きく下回るとともに、各教科に否定的な印象をもつ理由として「不得意」「分かりにくい」という回答の割合が多い。授業を通して「分かる」実感をもてずにいる生徒が多く、学力定着に課題がある。

また、「考えを発表する機会がある」「話し合う活動を行っている」という項目に肯定的な意見が6割を超えるのに対し、「考えを他者に説明したり、文章に書いたりすることは難しい」「話し合う内容を理解し、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えを伝えている」「考えが伝わるように、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している」「話し合いで、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」という項目に肯定的な意見は3～4割と低い。「秋田の探究型授業」のプロセスが大切にされていることがうかがわれる一方で、そのプロセスが形骸化していないかを再検証し、生徒が表現したり、考えを広げ深めたりするための手立てを改善する必要がある。

さらに、各教科に肯定的な印象をもつ理由として、「内容に興味がある」「考えるのが楽しい」という回答の割合が、多くの教科において昨年度比で改善傾向にある。校内の教職員や生徒へのアンケートにおいても、「積極的に学ぼうとする姿が増えた」「友達と関わりながら活動することが楽しい」とする回答が多い。これは、昨年度の実践「生徒の意欲を引き出す導入や課題設定の工夫」が生徒の関心・意欲を高めた成果の一つと捉える。

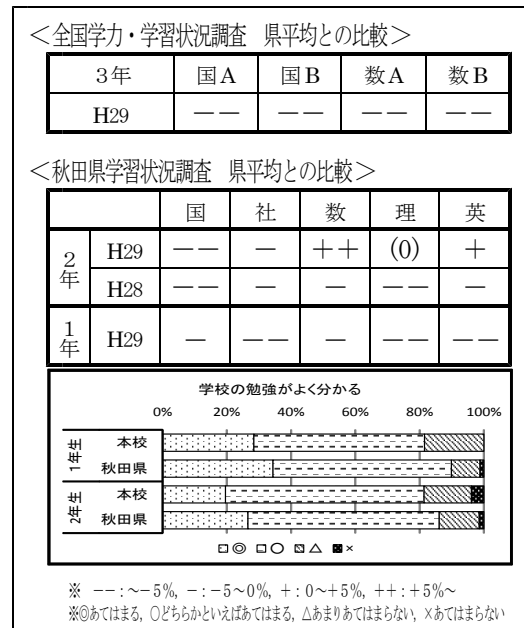
数年前から課題としてきた家庭学習時間についてはあまり改善が見られず、今年度も県平均を下回っており、新たな手立てが必要である。

以上のことから、学力が十分に定着しない原因として、次の3点が考えられる。

- ・考えを深め合うための言語活動の充実に向けた手立てが不十分である。
- ・「自分自身の考えを整理し表現する力」「他者の考えを生かして考え、表現する力」が育っていない。
- ・学習したことを家庭での学習につなげて、自分で学んでいく力が育っていない。

また、改善のためには、生徒の「仲間と関わり合う力」を一層高めつつ、「思いや考えを言葉にして伝え合いながら、共に思考を深めていく」学習を効果的に行うことが大切だと考える。

以上、本校教育目標や生徒の実態を踏まえ、本校の目指す生徒像「自律 協働 学び合い」ができる生徒の実現に向けて、学校全体で育む資質・能力として「自身で判断し行動する力」「他者と関わる力」「主体的に学ぼうとする力」「思いや考えを確かに伝える力」を大切にしていきたい。そこで、今年度の研究実践はこれまでの成果を生かしつつ、「対話」を鍵にした授業改善を進めていく。この取組により、多様な人との関わりを通して自分の思いや考えを広げ深めることができる生徒、生活の多様な場面において他の思いや考えを受け止め、相手や場の状況に応じて自分の思いや考えを表現することができる生徒の育成を図り、学校全体で目指す資質・能力を生徒に育みたいと考え、本研究主題を設定するものである。



4 研究の仮説

学びの各プロセスにおいて「対話的な学び」の視点を大切にしたい授業づくりをしたり、言語活動において考えを深め合う対話を引き出す工夫をしたりすることにより、生徒は共に学ぶ楽しさやよさを実感し、自分の思いや考えを広げ深めて、それを確かに表現することができるようになるだろう。

5 研究の重点と重点実践事項

自らの考えを広げ深め、それを確かに表現することができる生徒の育成を図るために、次の2点を研究の重点とする。

- (1) 学ぶ楽しさやよさを実感し、自分の考えを広げ深めようとする姿の育成を目指す。
- (2) 自分の思いや考えを表現する力の向上を目指す。

また、研究を進めるために、次の3点を研究の重点実践事項とするとともに、今年度は「自分の考えをもち、対話を通して、共に考えを深め合う活動の充実」を最重点実践事項として焦点を当て、研究実践を進める。

生徒の価値ある言葉を引き出すために、

- 対話を引き出し、学習の見通しをもたせる導入の工夫をする。
- ◎ 自分の考えをもち、対話を通して、共に考えを深め合う活動の充実を図る。**
- 学びの実感が得られるまとめ・振り返りの工夫をする。

6 研究の重点に関する共通実践内容

(1) 今年度の最重点実践事項

No	最重点実践事項	共通実践内容
1	自分の考えをもち、対話を通して、共に考えを深め合う活動の充実	①各教科等の「見方・考え方」を働かせて考えたり表現したりできる言語活動の充実を図る。 ②ねらいの達成に必要な対話を促すための手立てを工夫する。 ③生徒同士が共に考えを深め合うことができるような支援を工夫する。

(2) その他の重点実践事項

No	重点実践事項	共通実践内容
1	学習の見通しをもたせる導入の工夫	①「仲間と共に考えたい・話し合いたい」と思える教材や導入の在り方を工夫する。 ②生徒から思いや考えを引き出し、生かす手立てを工夫する。
2	学びの実感が得られるまとめ・振り返りの工夫	①学習成果や自分の変容を振り返ったり、それを他者と共有して相互に評価し合ったりする活動を工夫する。

7 研究を支える基盤となる具体的実践事項

(1) 学習意欲の向上，基礎・基本の定着や向上への取組

No	具体的実践事項	取組内容
1	「秋田の探究型授業」の実践	①「見通し，個の学び，他者との学び合い，まとめ・振り返り」のプロセスを大切にした授業づくりをする。 ②問いの形式の課題を検討・吟味し，ねらいに応じた学習課題を設定する。 ③ペアやグループ，全体など，生徒の実態や目的に応じた多様な学習形態を工夫する。 ④学んだことを実感できる振り返りの仕方（自己評価，相互評価，評価問題等）を工夫し，計画的に実施する。
2	授業のユニバーサルデザイン化	①学習環境を整える。（教室の整理整頓，教師が決める学びが成立する座席，学習予定の掲示） ②学習・生活のきまりを徹底する。（天中スタンダードや生活・学習評価表の活用，各教科等の学び方の確認） ③人間関係を大切にする。（生徒指導の三機能を生かした授業，自由に話せる雰囲気，信頼関係に基づくコミュニケーション） ④教師の話し方，発問や指示を適切に行う。（正しい言葉や適切な表現の使用，生徒を認め励ます声かけ，立ち位置，「待つ・聴く」姿勢，「なぜ・どのように」等の問い直しの言葉） ⑤効果的な板書計画を立てる。（授業の流れが分かる板書，大切なところが分かる板書） ⑥実態に応じた教材・教具を工夫する。（視覚化，具体物等）
3	チャレンジテストの効果的活用	①チャレンジテストを計画的に実施する。（年間3期，各期各教科1回，全15回実施） ②生徒自身によるチャレンジテストへの取組強化に対する支援を進める。（学習委員会や各学年委員会の活動） ③定着が不十分な基礎的・基本的な学習内容（高校入試等の基本問題になるような内容）に焦点を当てて，指導の徹底を図る。 ④事前学習が充実するよう支援を進める。（課題の事前配付，放課後や家庭での学習等）

(2) 家庭学習の量的・質的向上への取組

No	具体的実践事項	取組内容
1	計画的な取組の推進	①部活動終了時刻の厳守と生活指導を行い，平日の家庭学習時間90分以上，部活動オフシーズン等の家庭学習時間2時間以上を目標として奨励し，学習への取組を促す。 ②自主的な計画的取組を促すため，生活ノートや長期休業中の計画表を活用する。 ③放課後等を活用し，個別指導，学習相談を実施する。
2	適切な家庭学習の課題提示や学び方指導の充実	①授業での各教科の学び方指導と，「家庭学習の手引き」を連動させた指導に当たる。 ②授業と連動した適切な家庭学習の課題を，生活・学習評価表を活用して提示する。

		③基礎的な内容の繰り返し学習として、日々の宿題や週末課題を充実させる。
3	生徒による取組の強化	①学年の実態に応じた計画的学習や内容充実のための取組を推進する。(ノート紹介, リレーノート, 朝チャレ, 提出率や目標時間達成率の掲示, 委員会キャンペーンなど) ②ノート紹介に当たっては、学習委員など仲間からのコメントにより、取組のよい点を紹介する。

(3) 授業力を鍛える取組と校内研修の充実

No	具体的実践事項	取組内容
1	教科の枠を超えた研究授業による授業改善への取組	①計画訪問(教科等), 学力向上推進班による学校訪問(要請訪問), 要請訪問等を計画的に実施する。 ②重点実践事項に沿った視点から生徒の姿を見取り, それを基に付箋紙を用いた授業分析を進め, 各自の授業改善に生かす。
2	相互授業参観による教師同士が学び合う機会の設定	①年2回の相互授業参観期間を設定する。(6月, 11月) ②授業の参観を計画的に行う。 ③参観者の感想等を研究部でまとめ, 配付する。
3	研修の計画的で効果的な実施	①全体研修会を計画的に実施する。 ②指導主事, 教育専門監を積極的に招聘する。
4	諸調査の結果分析を活用した授業改善	①生徒による授業評価の実施と, その結果を受けての授業改善を図る。(7月, 12月) ②県学習状況調査等の諸調査の結果と関連付けた, 生徒個々に対する学び直しを行う。
5	指導計画の整備	①各教科・領域等の年間指導計画の見直しを図り, 整備する。 ②キャリア教育を推進するため, 全職員で共通理解を図りながら, 全体計画や年間指導計画を整備する。

(4) 連携研修の推進

No	具体的実践事項	取組内容
1	学区内小・中連携による授業参観と情報交換	①全職員が「学習指導」「生徒指導」「児童生徒活動」に分かれて, 二つの小学校と協同的な研修に取り組む。(5月, 8月, 1月) ②小・中教員の指導力向上と, 指導の継続性を図るため, 相互授業参観や授業交流に取り組む。 ③道徳や総合的な学習の時間, キャリア教育に関して情報を共有し, 連携を図る。
2	県総合教育センターとの連携による校内研修会の実施	①総合教育センター指導主事を要請し, 授業改善に資する校内研修に取り組む。

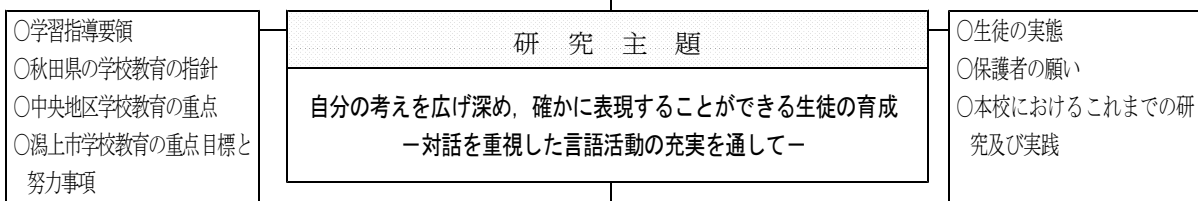
9 研究の全体構想

学 校 教 育 目 標 自律 協同 学び合い ～共に成長 共に前進～

目 指 す 生 徒 像	
自 律	善悪の判断に基づいて行動する生徒 辛いことにも粘り強く努力する生徒 いじめを「しない」「させない」「許さない」生徒
協 同	仲間を思いやることのできる生徒 仲間と力を合わせて活動に励む生徒 仲間と目標達成のために協力し合う生徒
学び合い	よく見て、確かに聴き取る生徒 自らの考えをもち、はっきり伝え合う生徒 学習に継続して取り組み、自らを高めようとする生徒

目 指 す 教 師 像	
① 信 頼	・教職員であることを自覚して行動する教師 ・5つをかけられる教師『目 手 言葉 心 時間』
② 力 量	・豊かな人間性と実践力にあふれた教師 ・教科指導・生徒指導の力量を高めようとする教師
③ 参 画	・教育目標達成のための自らの使命を自覚し、ひたむきに実践する教師 ・自ら研修と修養に努め、学校経営に反映させようとする教師

天王中教育5原則（基本方針） ～確かな前進～	
天王中の教育の伝統を継承・発展させ、誇りある校風と学校文化を創造する。(温故創新)	
1 生活＝学習	規律ある安全・安心な生活・学習環境の維持向上に努める。
2 全校体制	学年，教科を超えた全校体制での指導の連続性を図る。
3 生徒活動	生徒の自主的な活動を育て，協同と相互啓発の学校風土を醸成する。
4 学び合い	協同的な学習と授業研究により，「学び合い」の学校文化を創造する。
5 積極的評価	よい点や可能性，努力する姿勢を認め励ますなど，積極的な評価に努める。
※評価・検証 R-PDCAサイクルに基づく，計画的・組織的な学校運営に努める。	



研 究 の 仮 説
学びの各プロセスにおいて「対話的な学び」の視点を大切にした授業づくりをしたり，言語活動において考えを深め合う対話を引き出す工夫をしたりすることにより，生徒は共に学ぶ楽しさやよさを実感し，自分の思いや考えを広げ深めて，それを確かに表現することができるようになるだろう。

研 究 の 重 点
(1) 学ぶ楽しさやよさを実感し，自分の考えを広げ深めようとする姿の育成を目指す。 (2) 自分の思いや考えを表現する力の向上を目指す。

以上、(1)本校教育目標や(2)生徒の実態を踏まえて、本校が目指す資質・能力を、「多様な人との関わりを通して自分の思いや考えを広げ深める力」、「生活の多様な場面において、他の思いや考えを受け止め、相手や場の状況に応じて自分の思いや考えを伝え合う力」と設定し、その実現に向けて取り組んでいく。今年度は、これまでの研究実践の成果を生かしつつ、「対話」を鍵にした授業改善を進めることで、本校が目指す資質・能力を身に付けた生徒の育成を図りたいと考え、本研究主題を設定するものである。

以上、(1)本校教育目標や(2)生徒の実態を踏まえ、今年度はこれまでの研究実践の成果を生かしつつ、「対話」を鍵にした授業改善を進めていく。この取組により、多様な人との関わりを通して自分の思いや考えを広げ深めることができる生徒、生活の多様な場面において、他の思いや考えを受け止め、相手や場の状況に応じて自分の思いや考えを伝え合うことができる生徒の育成を図りたいと考え、本研究主題を設定するものである。